

環境影響評価審査書

65 日東電工株式会社（仮称）秦野研究所建設事業

I 総括事項

日東電工株式会社（仮称）秦野研究所建設事業（以下「本件事業」という。）は、日東電工株式会社が、秦野市大字羽根字内屋敷1066-1番地ほかの56,136平方メートルの土地（以下「実施区域」という。）に、半導体、表示材料、回路材料等の電子情報材料の研究、開発を中心とした研究所を建設しようとするものである。

実施区域は、秦野市のほぼ中央、丹沢山地の南麓、秦野盆地の北縁に位置し、小田急小田原線の秦野駅から約4キロメートル、渋沢駅から約8キロメートルで、第一東海自動車道の秦野中井インターチェンジからは約6キロメートルの距離にある。

実施区域はかつて採石場として利用されたため、その地形は採石跡である南側の平坦地と北側の急斜面、及び斜面上に残された尾根部から構成されており、現在、平坦地は地元のもトクロス愛好家に暫定的に開放され、斜面地には低木類や草本類が自生し、斜面上の尾根部はスギ、ヒノキ等の樹林地となっている。

実施区域を含めその周辺地域は市街化調整区域に指定されており、実施区域背後の樹林地は「菩提向山自然環境保全地域」、さらに「丹沢大山国定公園」へとつながり、前面は、果樹園や畑地、水田の良好な農地が広がっている。実施区域は、この自然性豊かな森林域と良好な農地との境界上に位置し、その周辺を含めた地域には山地に生息する動物と、平地、低地に生息する動物とが混在した多様な生物相がみられる。

また、実施区域を含む秦野盆地は、盆地内を北西から南東に流れる水無川、葛葉川等によって形成された扇状地であり、砂礫層が厚く堆積して帯水層となり地下水が豊富である。盆地内には湧水、自噴井戸が各所に存在し、「秦野盆地湧水群」として環境庁の指定した「全国名水百選」に選ばれている。また、葛葉川下流部の葛葉緑地は、市街地における身近な水辺環境を形成している。

このように、丹沢の緑と豊富な地下水が実施区域を取り囲む地域の環境特性であるが、その一方、有機塩素系化学物質による地下水汚染の問題も生じている。

県が策定した「かながわ地下水総合保全計画」では、秦野盆地の地下水についてその保全対策の必要性を指摘しており、秦野市においても、「秦野市地下水汚染の防止及び浄化に関する条例」により地下水の汚染防止や浄化等に取り組んでいるところであり、市民の関心も高い。

本件事業は、このような地域に、多種類の化学物質を使用する研究所を建設するものであることから、事業の実施に当たっては、特に次の点について配慮する必要がある。

まず、実験系排水は外部へ排出しない計画となっているが、秦野市では上水道水源の65パーセントを地下水に依存していることを考慮すれば、地下水汚染の未然防止や雨水のかん養等、より積極的な保全対策を講じる必要がある。

また、事故災害の発生防止、地震等の自然災害への的確な対処のため、施設、管理両面での安全対策を明確にするとともに、地域住民に対してもできる限り安全に関する情報を提供する必要がある。

次に、実施区域背後の森林域との緑の連続性を保つ等、周辺環境との調和や動植物の生息生育環境の保全に努める必要がある。

以上、総括的な視点からの審査結果について述べてきたが、個別的な審査結果は次のとおりである。

なお、社会情勢の変動、科学技術の発達などに伴う研究内容の変化も考えられるので、状況に応じて適切に対応し、環境に負荷を与えないよう努める必要がある。予測評価書の作成に当たっては、これらの内容を十分踏まえ、適切に対応する必要がある。

II 個別事項

1 大気汚染

予測評価書案によれば、大気汚染に係る特定物質については、計画地周辺に著しい影響を及ぼさないことを評価目

標とし、評価結果は、公害防止条例に定める規制基準を遵守することで、評価目標を達成できているとしている。

しかしながら、評価については、大気汚染に係る特定物質の最大着地濃度に対するACGIH（米国産業衛生専門会議）の許容濃度（TLV-TWA）との対比で行っており、この許容濃度は、健康な成人が1日8時間労働する場合の作業環境の上限値である。

したがって、周辺環境大気中の予測評価を行うに当たっては、この許容濃度に対し、より安全を見込んで検討すること。

また、風速、安定度などの予測条件を明らかにするとともに、特定物質が人体に及ぼす影響などを考慮して、濃度が高くなりやすい条件も設定し予測すること。

2 廃棄物

実験系排水処理施設は希釈排水の処理を目的としたもので、溶剤、メッキ更新液等の濃厚廃液や一次洗浄水が直接実験系排水処理施設に流入すると適正に処理されない恐れがあるため、それらに対する分別回収の徹底を含む流入防止管理体制について明らかにすること。

また、有害物質を含む廃油、廃酸などの特別管理産業廃棄物や多種類の産業廃棄物が生じるので、それらの具体的内容やその処理方法について明らかにすること。

3 地象

実施区域北側のり面の崩壊予測においては、円弧すべり安定解析を行っているが、当のり面については、最大傾斜角約60度、高さ約60メートルとなる長大のり面の切盛計画であり、表層崩壊も想定されるため、これに対する予測も行い、その結果によっては適切な対策を講じること。

また、工事中のり面管理においては、安全が十分確保されるよう対策を講じること。

4 植物

予測評価書案によれば、実施区域北側のり面に計画されている樹林創出のり面緑地については、環境保全緑地としてススキやオオバヤシャブシ等の種子吹き付けを行うとしている。しかしながら、この方法では潜在自然植生に遷移するまでに長い年月を要することから、潜在自然植生であるシラカシ群集、アラカシーウラジロガシ群落等を構成する樹木を生かした緑化計画を検討すること。

また、芝地として計画している草地創出のり面緑地及び建物回りの緑地については、周辺緑地との連続性や緑の量の確保の視点から、さらには周辺景観にも配慮した緑化計画を検討すること。

5 動物

予測評価書案では、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で国内希少野生動植物種に指定されているオオタカが実施区域の北約1.5キロメートル地点で確認されており、オオタカの行動圏が広いことから実施区域は採餌地の一部としての可能性があるとしている。

しかし、実施区域及びその周辺の地形特性をみると採餌だけでなく繁殖、見張り場所として利用される可能性もあるので、詳細な調査を行うとともに、その結果によっては、生息環境に配慮し、事業を実施すること。

また、実施区域やその周辺には多くの種類の昆虫や小動物等が生息していることから、照明や排水溝等施設の構造についても配慮すること。

6 その他

(1)地下水の保全について

本件事業の地下水汚染防止対策としては、実験で生ずる濃厚廃液等は産業廃棄物として適正に処理し、希釈排水については実験系排水処理施設で処理後、処理水を実験用水等に再利用することにより、実験系排水を外部へ排出しないこと等を計画している。しかしながら、秦野市においては、水道水源の多くを地下水に依存しており、地下水保全対策の取り組みや、地下水汚染に対する市民の不安感を考慮すると、事業の実施に当たっては、地下水脈を遮断しない構造はもとより、化学物質による地下水の汚染防止対策、雨水のかん養等の地下水の保全対策を十分に行うこと。

(2)工事中の対策について

本件事業の実施に当たっては、工事用車両の交通安全や建設機械等の騒音・振動について、地域住民の生活環境に影響を及ぼさないよう十分な対策を行うこと。

また、文化財についても、実施区域が羽根内屋敷遺跡の埋蔵文化財包蔵地の指定を受けていることから、慎重に対応すること。